



大幸薬品

# 2022年12月期 (FY2022) 連結決算報告

2023年2月

大幸薬品株式会社

証券コード：4574

## 1. 2022年12月期 連結決算業績

## 2. セグメント別事業概況

## 3. 次期業績予想

## 4. 今後の事業戦略について



## 1. 2022年12月期 連結決算業績

# 収益認識基準の適用による前期数値の組替について

- 2022年12月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用
- 前期における売上高への影響は△1,384百万円、営業利益への影響はなし
- 本資料では前期比較を容易にするため、前期数値も会計基準適用後(新基準※)の数値に組替

## 【主な変更点】

- ・ 顧客へのリポート費用等:費用計上ではなく、売上高から減算
- ・ 将来の返品に伴う返金見込額:従来の返品調整引当金ではなく、返金負債に係る影響額を売上高より減算

(単位:百万円)

■ 前年同期実績	FY2021 (従来基準)	FY2021 (新基準※)	差異
	通期 累計実績	通期 累計実績	
売上高	11,299	9,914	△1,384
売上総利益	2,746	1,941	△805
販売費及び一般管理費	7,694	6,888	△805
営業利益	△ 4,947	△ 4,947	-

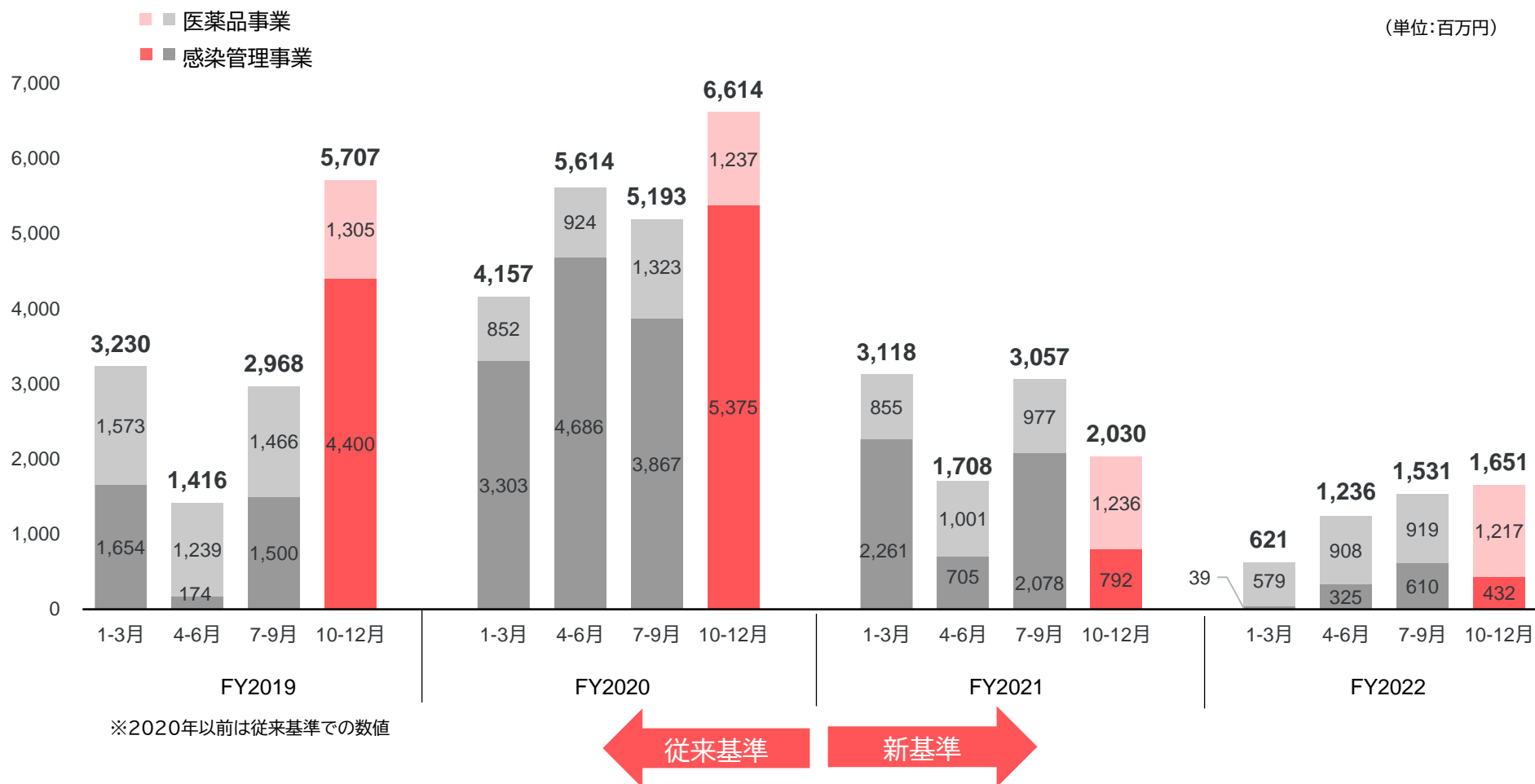
※前期の新基準は監査法人による監査を受けていない参考値

- 売上高は、主に感染管理事業の減収が響き、大幅減収
- 期首より、販売費及び一般管理費のコスト削減に努めたものの、減収による売上総利益の減少影響をカバーできず大幅な損失計上

(単位:百万円)

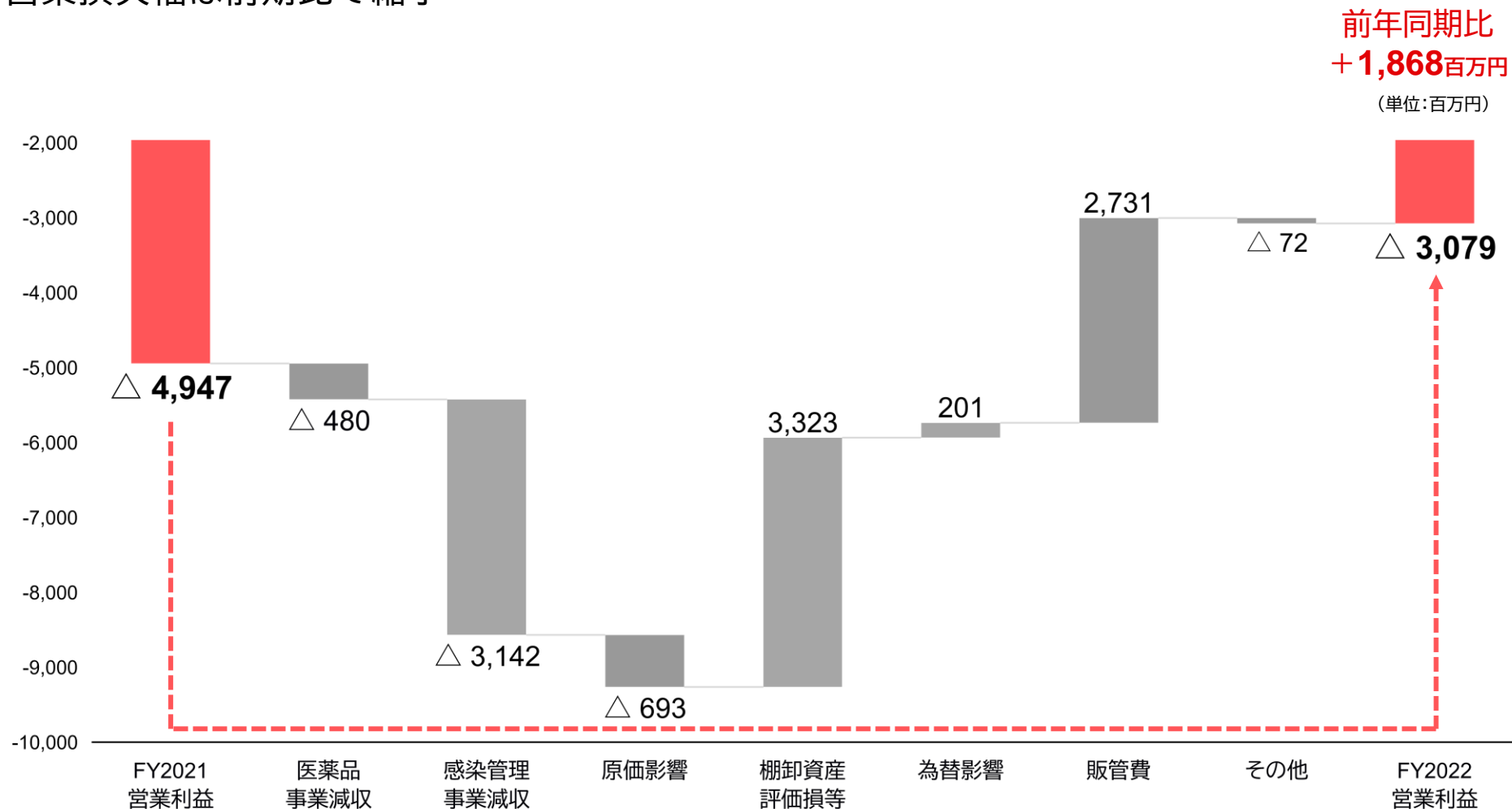
	FY2021(新基準)		FY2022		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	通期実績	売上比	通期実績	売上比		
売上高	9,914	-	5,040	-	△ 4,874	△ 49.2%
売上総利益	1,941	19.6%	1,078	21.4%	△ 862	△ 44.4%
販売費及び一般管理費	6,888	69.5%	4,157	82.5%	△ 2,731	△ 39.6%
営業利益	△ 4,947	△ 49.9%	△ 3,079	△ 61.1%	+ 1,868	-
経常利益	△ 6,131	△ 61.8%	△ 3,352	△ 66.5%	+ 2,778	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 9,594	△ 96.8%	△ 4,895	△ 97.1%	+ 4,699	-

# 連結売上高推移 (四半期)



# 営業利益の変動要因

- 感染管理事業の減収が大きく影響するものの、棚卸資産評価損や販管費の減少等により営業損失幅は前期比で縮小



# 販売費及び一般管理費

- 構造改革の推進によって、広告宣伝費の見直しや運送費(在庫保管料)の削減等が進み、販売費が大きく減少
- 役員報酬の減額や希望退職の実施等により人件費を大幅に圧縮

(単位:百万円)

	FY2021(新基準)		FY2022		増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	通期実績	構成比	通期実績	構成比		
販売費及び一般管理費合計	<b>6,888</b>	-	<b>4,157</b>	-	<b>△ 2,731</b>	<b>△39.6%</b>
販売費	<b>2,986</b>	<b>49.3%</b>	<b>1,226</b>	<b>29.5%</b>	<b>△ 1,759</b>	<b>△58.9%</b>
広告宣伝費	<b>1,595</b>	<b>23.2%</b>	<b>502</b>	<b>12.1%</b>	<b>△ 1,093</b>	<b>△68.5%</b>
販売促進費	<b>604</b>	<b>8.8%</b>	<b>304</b>	<b>7.3%</b>	<b>△ 300</b>	<b>△49.6%</b>
運送費	<b>785</b>	<b>11.4%</b>	<b>419</b>	<b>10.1%</b>	<b>△ 366</b>	<b>△46.6%</b>
人件費	<b>1,909</b>	<b>27.7%</b>	<b>1,408</b>	<b>33.9%</b>	<b>△ 500</b>	<b>△26.2%</b>
その他経費	<b>1,993</b>	<b>28.9%</b>	<b>1,522</b>	<b>36.6%</b>	<b>△ 471</b>	<b>△23.6%</b>
研究開発費	<b>546</b>	<b>7.9%</b>	<b>384</b>	<b>9.2%</b>	<b>△ 161</b>	<b>△29.6%</b>
支払手数料	<b>686</b>	<b>10.0%</b>	<b>544</b>	<b>13.1%</b>	<b>△ 141</b>	<b>△20.7%</b>



# 経常利益・当期純利益

- 前期の固定資産の減損等により操業停止関連費用は大きく減少
- 当期の特別損失として、希望退職関連費用226百万円、支払補償費499百万円、課徴金引当金繰入額607百万円等を計上

(単位:百万円)

	FY2021(新基準) 通期実績	FY2022 通期実績	前期比	増減要因等
営業利益	△ 4,947	△ 3,079	+ 1,868	
営業外収益	108	109	+ 1	
営業外費用	1,292	383	△ 909	主に操業停止関連費用の影響 ※前期第2四半期より計上
経常利益	△6,131	△3,352	+ 2,778	
特別利益	60	-	△ 60	
特別損失	2,817	1,516	△ 1,300	希望退職関連費用226百万円 支払補償費499百万円 課徴金引当金繰入額607百万円
税金等調整前当期純利益	△ 8,887	△ 4,869	+ 4,018	
法人税、法人税等調整額	706	25	△ 681	
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 9,594	△ 4,895	+ 4,699	

■ 棚卸資産は19億円まで縮小(内、感染管理の棚卸資産は9億円)

(単位:百万円)

	FY2021 期末	FY2022 期末	前期比	増減要因等
流動資産	13,783	7,556	△ 6,227	
現金及び預金	5,796	3,105	△ 2,691	
売上債権	4,056	1,798	△ 2,257	
棚卸資産	3,206	1,952	△ 1,253	医薬品在庫高 984百万円 感染管理在庫高 959百万円
固定資産	8,751	7,489	△ 1,262	
資産合計	22,535	15,046	△ 7,489	
流動負債	4,320	2,793	△ 1,527	
固定負債	5,407	4,208	△ 1,198	
純資産	12,807	8,044	△ 4,763	
負債純資産合計	22,535	15,046	△ 7,489	
自己資本比率	56.8%	53.5%		

# 連結キャッシュ・フロー状況

- 期末のキャッシュ残高は約28億円
- コミットメントライン契約(総額50億円…現時点では未借入)により追加の調達余力を確保

(単位:百万円)

	FY2021 通期	FY2022 通期	主な要因 (FY22)
営業CF	△1,595	△1,994	税金等調整前当期純利益 △4,869 減価償却費 737 返品調整引当金の減少 △699 売上債権の減少 2,315 棚卸資産の減少 1,257 未払金の減少 △676
投資CF	△1,622	190	設備投資による支出 △84 投資有価証券の償還 300
財務CF	3,959	△997	長期借入金の返済 △923
現金・同等物換算差額	82	76	
キャッシュ増減 ※	823	△2,724	
キャッシュ期末残高	5,521	2,797	

※ 営業CF + 投資CF + 財務CF + 現金・同等物換算差額



## 2. セグメント別事業概況

# セグメント別事業概況

- 医薬品事業 : 供給不足による減収や、京都工場稼働による固定費の増加により減益
- 感染管理事業 : 措置命令の影響等により大幅減収となり、引き続きセグメント損失を計上

(単位:百万円)

		FY2021(新基準) 通期 累計実績	FY2022 通期 累計実績	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
医薬品事業	売上高	4,069	3,624	△445	△10.9%
	セグメント損益	1,476	297	△1,178	△79.8%
	利益率	36.3%	8.2%	-	-
感染管理事業	売上高	5,838	1,408	△4,430	△75.9%
	セグメント損益	△4,936	△2,179	+2,756	-
	利益率	△84.6%	△154.8%	-	-
その他事業	売上高	6	7	+0	+13.7%
	セグメント損益	△68	△44	+23	-
	利益率	△1,013.2%	△581.5%	-	-

- セイロガン糖衣Aは、一部原材料変更起因する生産量低下の影響により、減収
- 正露丸は、欠品したセイロガン糖衣Aの代替や他社製品の欠品の影響により、増収

## 製品カテゴリー別売上高

(単位:百万円)

	FY2021(新基準)	FY2022	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	通期 累計実績	通期 累計実績		
国内医薬品事業売上高	2,894	2,527	△367	△12.7%
正露丸	1,317	1,653	+336	+25.6%
セイロガン糖衣A	1,980	1,267	△713	△36.0%
正露丸クイックC	73	54	△19	△25.9%
その他 ※	66	72	+6	+9.9%
返品・値引・協賛等	△542	△521	+21	—

※ 整腸薬「ラッパ整腸薬BF」、止瀉薬「ピシヤット」等

正露丸



セイロガン糖衣A



正露丸クイックC

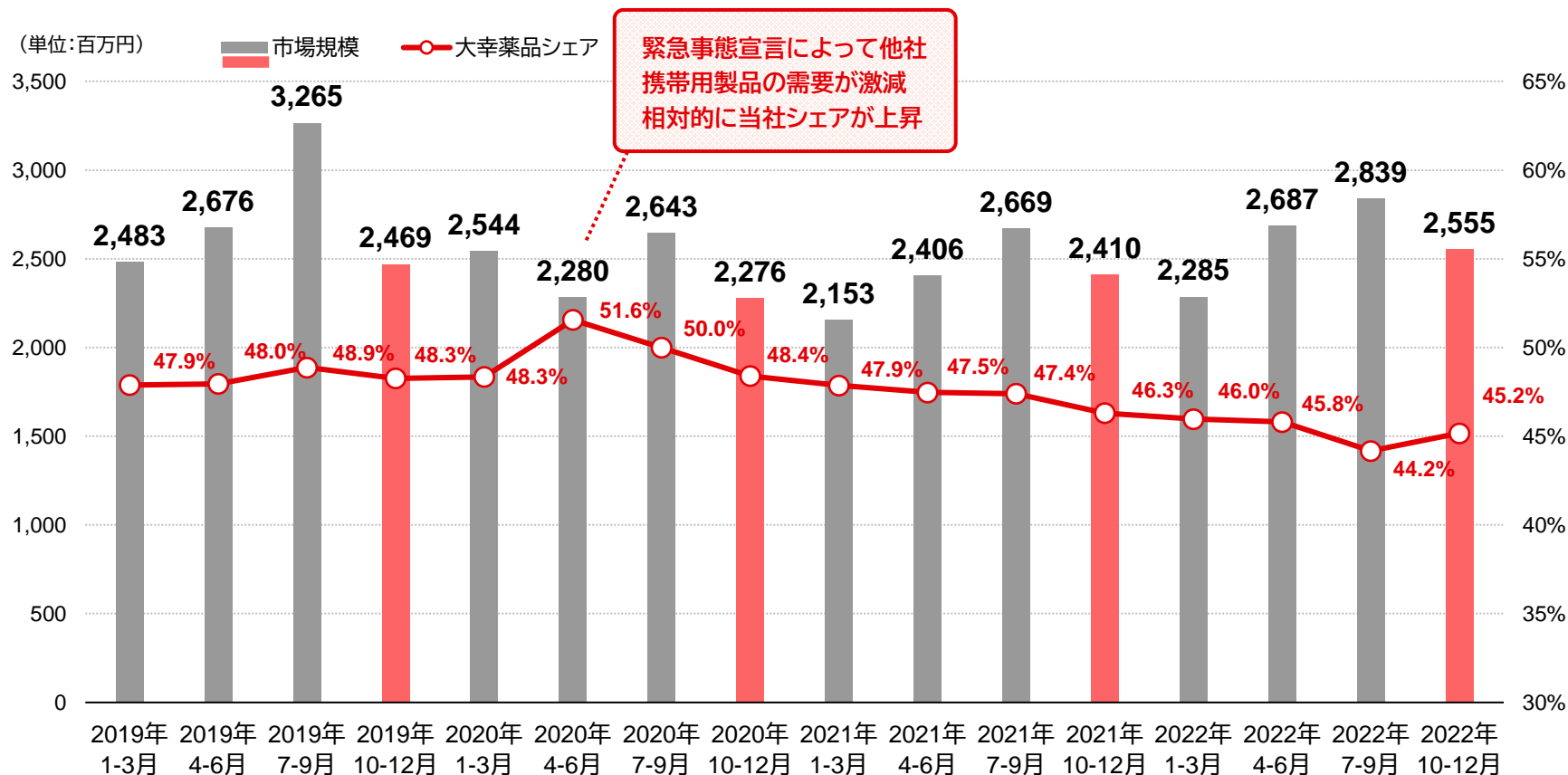


ピシヤット下痢止めOD錠



- 国内止瀉薬市場はコロナの影響が一巡し回復傾向
- セイロガン糖衣Aの生産は再開しており、正露丸とともに供給体制を強化し、シェア回復を目指す

## 国内止瀉薬市場



※出所: 株式会社インテージSRI+、店頭小売価格ベース

- 主力地域(中国、香港、台湾)での需要は回復傾向にあるものの、国内向けを優先とした製造スケジュール調整により減収

## 地域別売上高

(単位:百万円)

	FY2021(新基準)	FY2022	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	通期 累計実績	通期 累計実績		
海外医薬品事業売上高	1,174	1,097	△ 77	△6.6%
中国	334	687	+ 353	+105.7%
香港	670	276	△ 393	△58.8%
台湾	200	116	△ 83	△41.8%
その他対象エリア ※	40	53	13	34.8%
返品・値引・協賛等	△ 69	△ 37	+ 32	—

※ 米国、カナダ、タイ、マレーシア、ベトナム、モンゴル

正露丸



セイロガン糖衣A





- 新パッケージへの切り替えが完了したものの、需要が伸び悩み、措置命令に関連する返品影響をカバーするまでには至らず大幅減収

## ■ 対象顧客別売上高

(単位:百万円)

	FY2021(新基準)	FY2022	増減額 (調整後)	増減率 (調整後)
	通期 累計実績	通期 累計実績		
感染管理事業売上高	5,838	1,408	△ 4,430	△75.9%
国内一般用	5,464	1,736	△ 3,727	△68.2%
国内業務用	1,443	746	△ 697	△48.3%
海外	442	176	△ 266	△60.2%
返品・値引・協賛等	△ 1,512	△ 1,250	261	—

### クレバリン



### クレバ&アンド





### 3. 次期業績予想

# 2023年12月期 通期業績予想について

- 医薬品事業は、堅調な市場動向に加え、当期の供給不足によって流通在庫も枯渇しており、生産体制を強化し、市場への安定供給を図ることで売上の増加を見込む
- 感染管理事業は、『クレベリン』の更なる理解促進と信頼醸成を図る取り組みを推進するとともに、FY2022の返品影響(約7億円)がなくなることから前期比での売上増加を見込む

(単位:百万円)

	FY2022 実績	FY2023 業績予想	増減額	増減率
売上高	5,040	7,900	+2,859	+56.7%
医薬品	3,624	5,640	+2,015	+55.6%
感染管理	1,408	2,254	+845	+60.1%
その他	7	6	△1	△21.9%
営業利益	△3,079	532	+3,611	-
経常利益	△3,352	60	+3,412	-
当期純利益	△4,895	50	+4,945	-



# 大幸薬品

## 将来情報に関する注意事項

当資料に記載されている将来情報は、種々の前提に基づくものであり、  
将来の計画数値や施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません



大幸薬品

# 今後の事業戦略について

2023年2月

大幸薬品株式会社

証券コード：4574

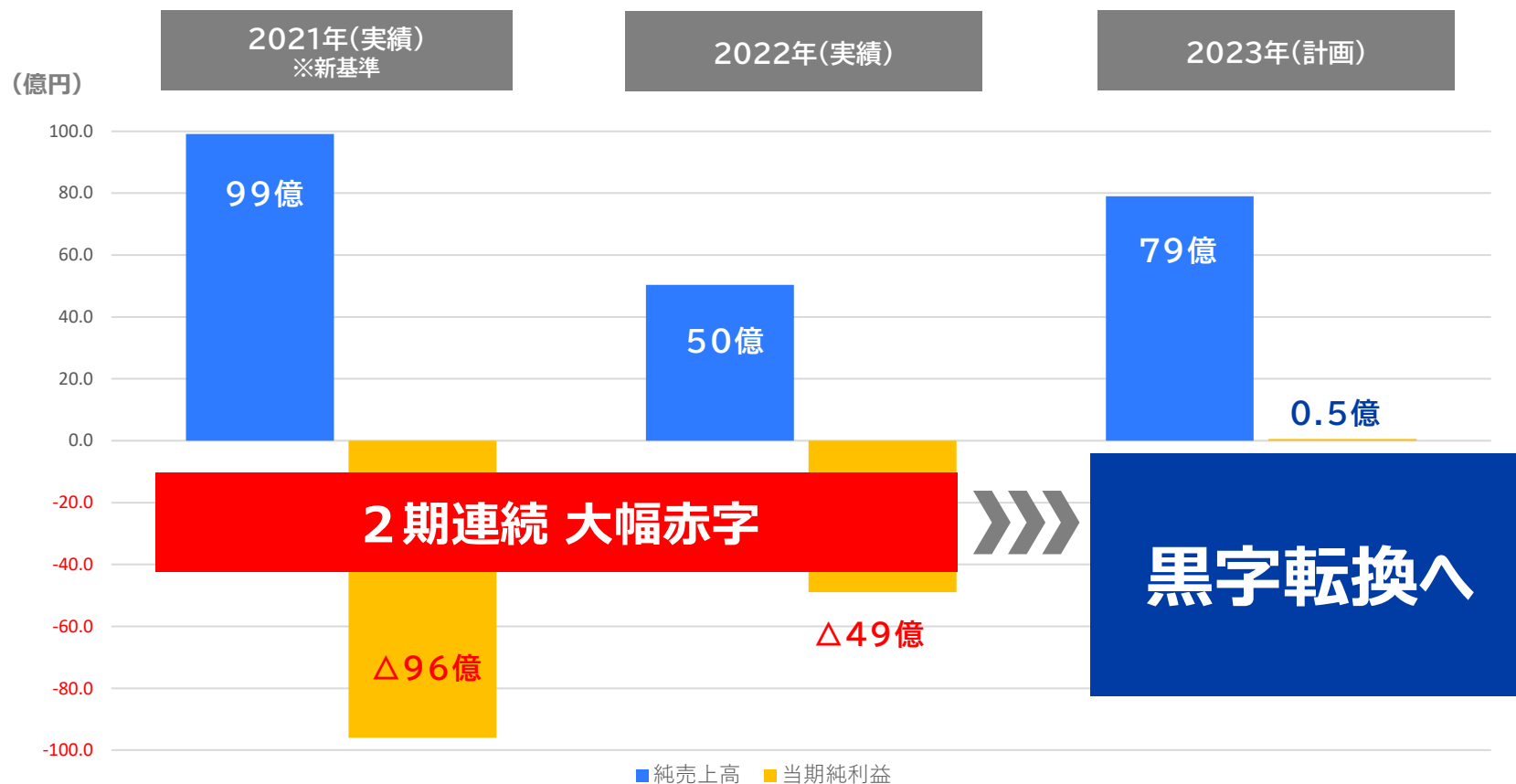
## 1. 経営方針

## 2. 医薬品事業

## 3. 感染管理事業

## 4. 構造改革による変革の推進

- コロナ禍による医薬品事業の停滞、クレバリンの措置命令等による感染管理事業の大幅減収によって**2期連続の大幅赤字**
- 2023年度は**構造改革の成果を発揮し、グループ一丸となって黒字転換を目指す**



新たな大幸薬品を目指し  
経営基盤の強化と  
成長軌道へ舵をきる



2025年

『カスタマーファースト』  
『エビデンスベースド』  
健康社会に必要とされる  
企業へ

実行可能な経営方針  
(FY23~FY25)

2022年

- コロナ禍による医薬品事業の停滞
- クレベリン措置命令によるブランドイメージの毀損
- 2期連続の大幅赤字





## 医薬品事業

## ラップブランドの再成長

- 更なる生産・品質体制の向上と原価低減
- インバウンド需要の取り込み
- 中華圏での速やかなコロナ前の売上達成

## 感染管理事業

## クレベリンのさらなる理解促進と信頼醸成

- 特許・二酸化塩素製品へのリソース集約
- 特許・二酸化塩素の安全性・有用性の理解と信頼醸成
- 二酸化塩素の新たな規格化

## コーポレート

## 構造改革による変革の推進

- 「事業仕分け」  
「組織のスリム化」  
「コスト削減」  
による収益性向上の継続
- サステナビリティ経営への体制整備

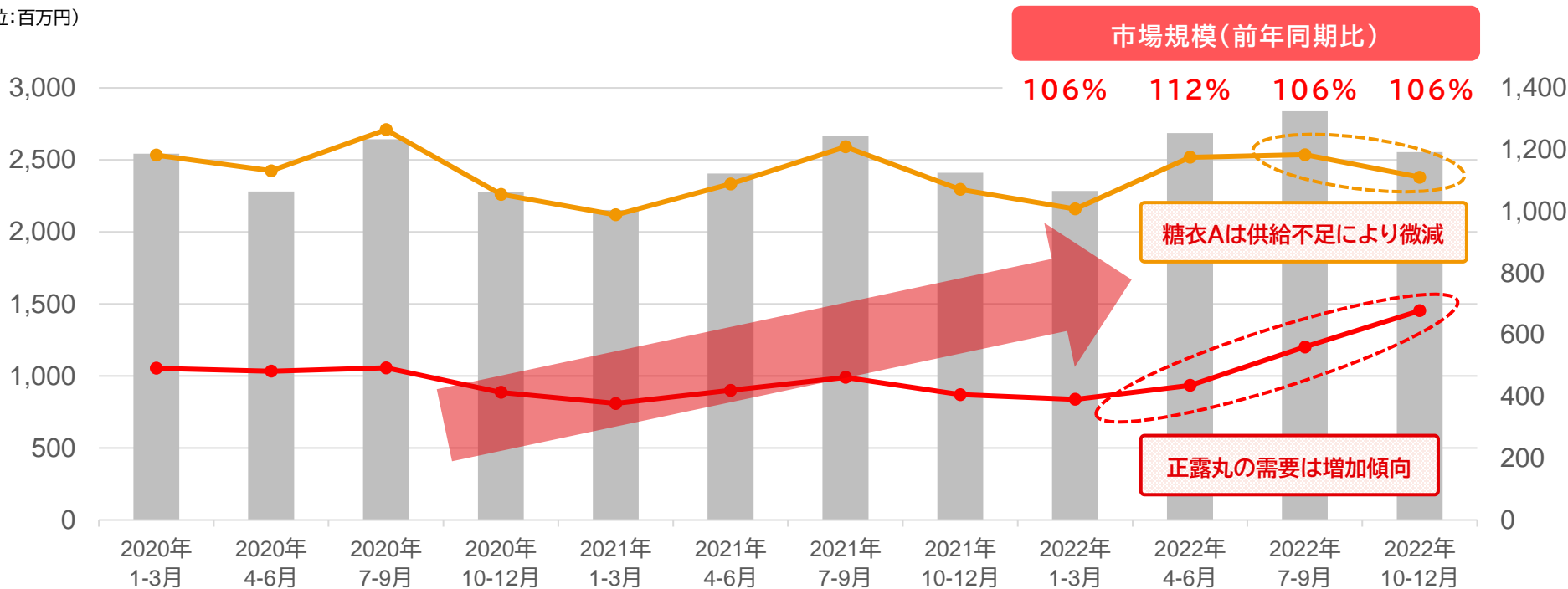
**市場環境は回復基調**  
前年比 107.6%

- 前期のセイロガン糖衣Aの生産量低下
  - 正露丸の需要増加
- ※糖衣Aの代替需要や他社製品欠品の影響等

**流通在庫が枯渇**  
**一部で店頭欠品**

**供給体制の強化が最優先**

(単位:百万円)



※データ元 インテージSRI+

■ 市場規模 ● 正露丸 ● セイロガン糖衣A



ラッパブランド  
強化



インバウンド需要  
取込み

セロトニン受容体に作用し  
下痢や腹痛抑制:

ストレス性下痢にも対応

塩素イオンチャンネルに作用し  
腸管内水分調整、水分吸収の促進:

感染性下痢にも対応

## 胃で吸収

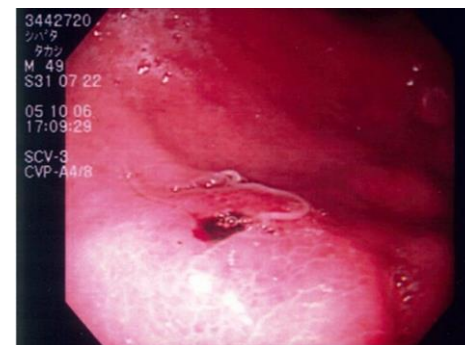
腸管運動(蠕動運動)を止めない  
腸内細菌に影響を与えない

副交感神経遮断成分がないため:  
使用禁忌が少ない

作業、運転時にも服用可能

食あたり:

胃アニサキス症?



※当内容は正露丸の医薬品としての効能効果を示すものではありません。



## 正露丸のエクイティ活用

×

デザイン強化

+

ユーザビリティ向上

+

コミュニケーション

## リニューアル予定

セイロガン糖衣A携帯用



ラッパ整腸薬BF



クイックC



アンチ・ドーピング認証取得

## ■ 木クレオソートの薬物相互作用がないことを説明



処方薬と併用できる止瀉薬へ  
医師が推奨できるアニサキスの治療薬へ  
医師が指定する糖尿病薬メトフォルミン由来下痢治療薬へ



中国人KOLやSNS活用を通じた送客

インバウンド向け企画品を通じた刈取り



+



ノベルティ例



※Cross-Border Next webサイトより引用  
<https://www.cbn.co.jp/archives/1912>  
<https://www.cbn.co.jp/archives/2054>



「クレベリン」  
の信頼醸成



二酸化塩素  
へのリソース  
集約



- クレベリンブランドサイトにて、クレベリンを用いたウイルス・菌の除去に関する実験動画を公開



おうちの  
衛生環境を  
考える。

クレベリン  
cleverin

cleverin  
TAIKO

cleverin  
TAIKO

「おうちの衛生環境を考える。」

◎実生活空間（有人、居室等）でのウイルス・菌・ニオイに対する機能は確認しておりません。

▲こちらをクリックすると動画がご覧になれます。

### 3. 感染管理事業 クレベリン置き型の臭気成分とホルムアルデヒドの除去効果 大幸薬品

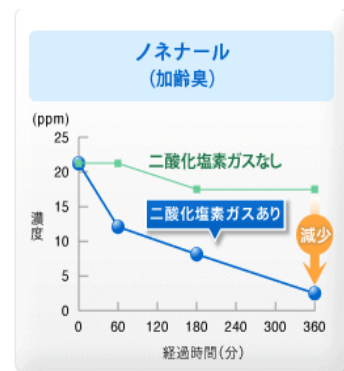
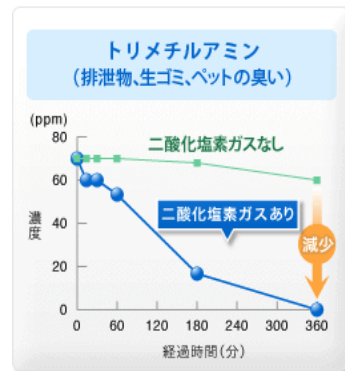
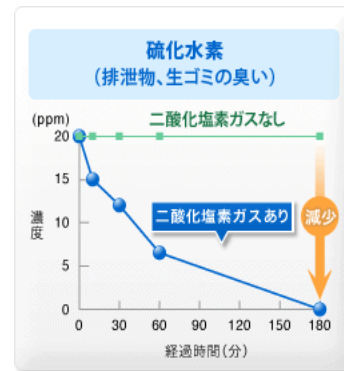
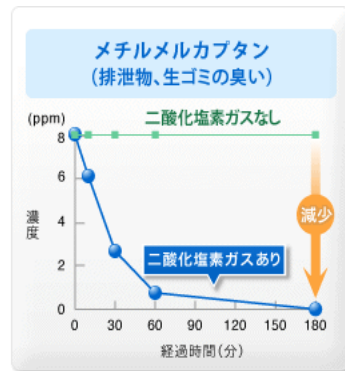
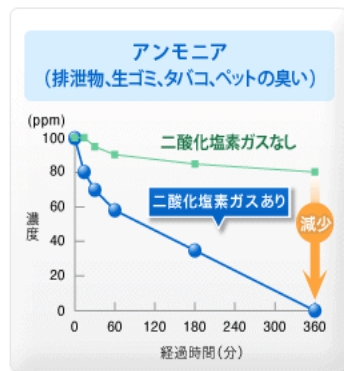
クレベリン15分静置後、各臭気物質を添加

ガス検知管 もしくは 液体クロマトグラフにより  
濃度測定し、空気の場合と比較

容積 9L



容積 1.5 m<sup>3</sup>

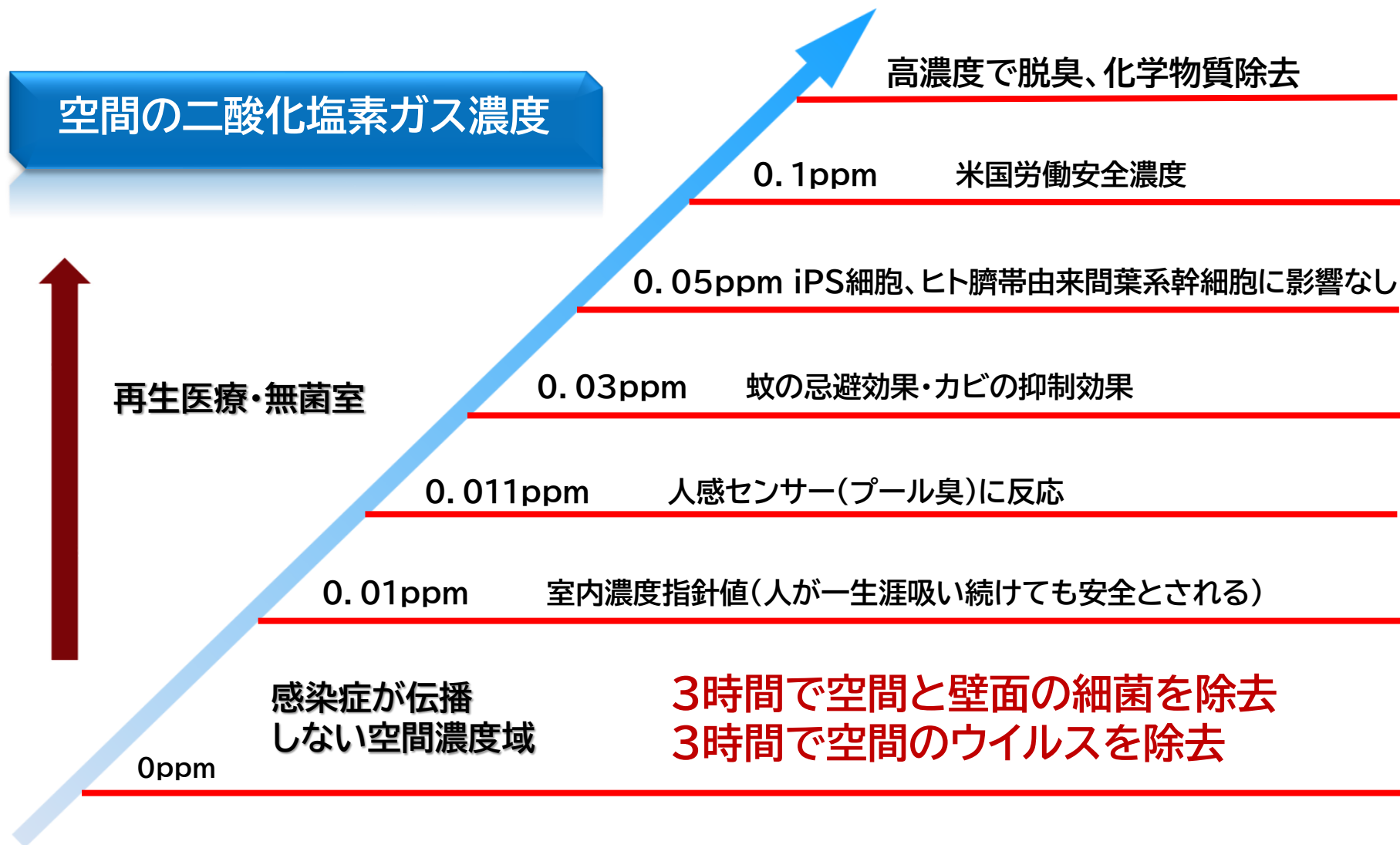


ホルムアルデヒド  
1.21 mg/m<sup>3</sup>

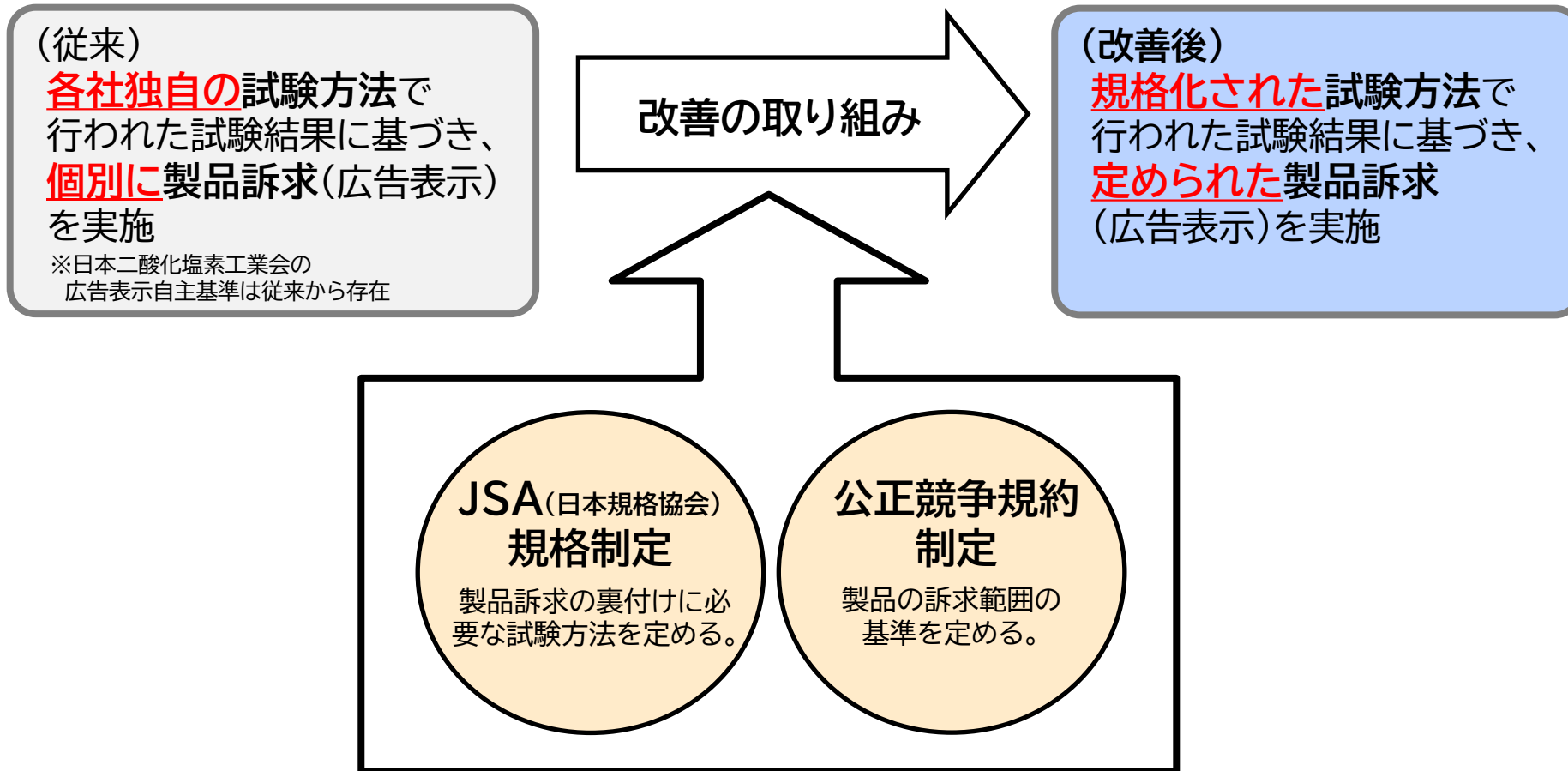


ホルムアルデヒド  
0.0106 mg/m<sup>3</sup>

99.1 % 除去(48時間後)



- 低濃度二酸化塩素ガス製品の医薬品化を視野に、JSA規格制定、公正競争規約策定を目指す





## クオリプス株式会社

- iPS細胞由来心筋細胞シートの開発・事業化を目的に設立された大阪大学発のベンチャー企業
- 主な株主は、第一三共株式会社、京大イノベーションキャピタル株式会社、テルモ株式会社、三菱商事株式会社
- 現在iPS細胞由来心筋細胞シートを用いた医師主導治験が行われています。
- 当社は再生医療に係る衛生分野での協業も念頭に、2020年12月に出資

※なお、クオリプス株式会社については、株式上場を準備している旨聞いております。



低濃度二酸化塩素ガスによるクレベリン除菌システムを利用した再生細胞の培養実験を共同で開始することを発表  
(2017. 6. 5)

当社は今後もパートナー企業や公的機関、大学と連携し、低濃度二酸化塩素を活用した感染管理対策の研究開発に取り組んでまいります。

## 医薬品事業

正露丸ブランドで  
胃腸環境を整える

セルフメディケーション  
対応

熱中症  
運動時脱水  
対応



大幸薬品

パンデミック  
集団感染  
学級閉鎖  
対策

院内感染  
薬剤耐性菌  
対策



## 木酢事業

土壌改善、化学肥料低減



## 『選択と集中による収益性の向上』 医薬品と感染管理のコア事業への集中

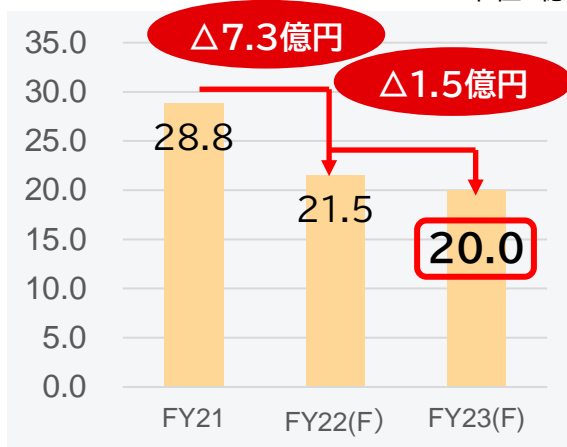


2022年8月発表

2023年計画

組織のスリム化

■ 人件費総額(原価部門含む) 単位:億円

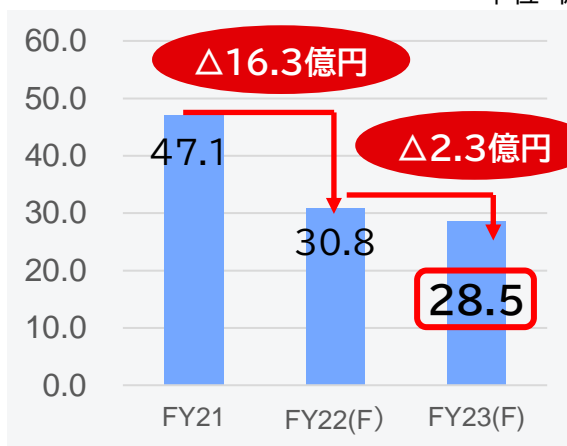
固定費削減は  
計画以上の進捗

19.3億円

前回比: △0.7億円

コスト削減

■ 販管費(人件費除く) 単位:億円



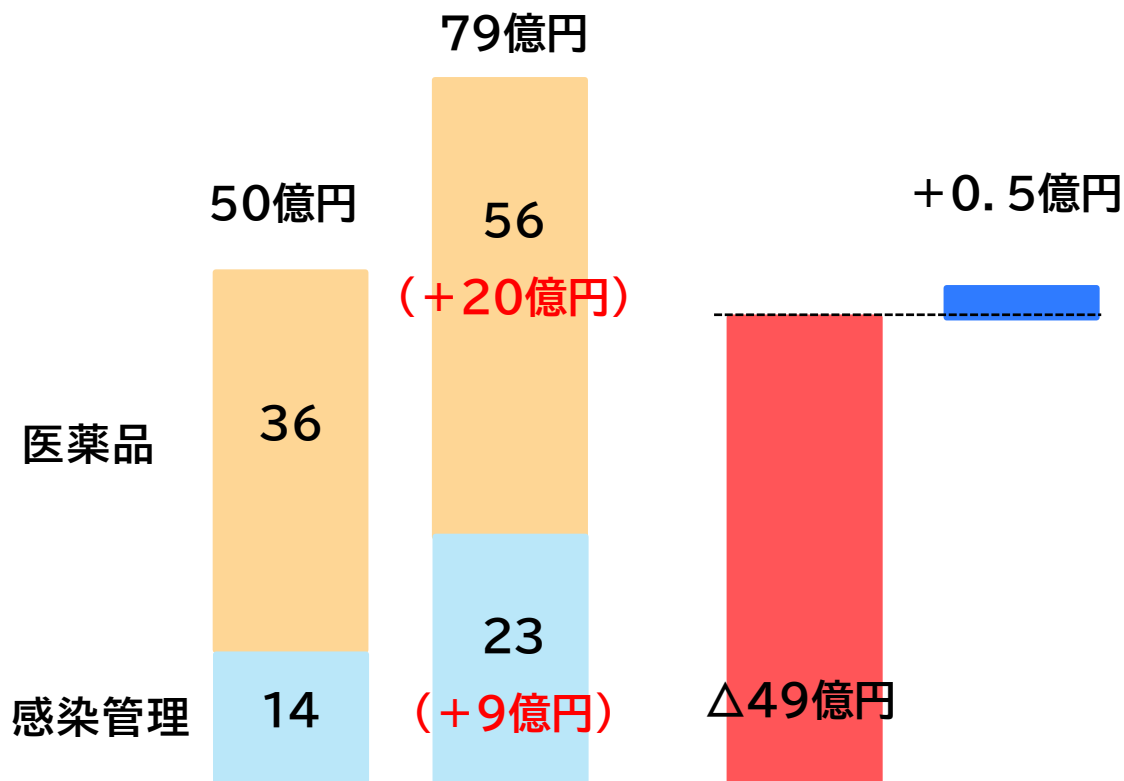
26.6億円

前回比: △1.9億円



## 〔売上高〕

## 〔当期純利益〕



### <医薬品事業>

- 医薬品供給体制の強化
- インバウンド需要回復
- ラップブランドを活用した商品リニューアル
- 海外中華圏強化

### <感染管理事業>

- クレベリン信頼回復
- 返品減少(措置命令影響)
- BtoB新領域獲得

**2023年配当予想：未定**

(業績回復、財務基盤の強化を最優先とし、現時点では未定とさせていただきます。)



世界のお客様に  
健康という  
大きな幸せを  
提供します。

## 医薬品事業



においがいい糖衣錠

**セイロガン糖衣A**

第2類医薬品

昔ながらの常備薬

**正露丸**

第2類医薬品



## 感染管理事業





# 大幸薬品

## 将来情報に関する注意事項

当資料に記載されている将来情報は、種々の前提に基づくものであり、  
将来の計画数値や施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません